たい。今回は、レーヨン、ビニロン、テトロンのマルチヤーンを加撚して作ったモデル糸について検討した。

2. (1)試料の直径調整。比重の異なる各試料が、ビニロン70dと近似的に同一直径になるように調整する。(2)油脂分除去。アルコール・ベンゼール抽出法で除去し、予備乾燥後調湿しておく。(3)糸作製。ペンジュラム型撚器を用い、d/30gの荷重をかけ、予め算出した撚縮み率を加算してセットした試料に加撚し、(1cm当り2, 4, 6, 8, 10)両端を接着液をつけた艶紙で固定した後とり外して台紙に接着しておく。つぎに、撚りと固定させるため蒸気セットを15分間行ない、乾燥、調湿して実験に供した。(4)吸上実験。試料に荷重をかけて下垂し、毛管現象による水(シリアスレッド0.2%液)の上昇を読取顕微鏡で測定する。

3. 繊維材料により撚りの影響の傾向が異なる。糸の太さによる影響がみられる。単糸と双糸の相違がみられる。

B-42 糸の吸水性について

長崎大教育 井上 栄

1. バイレック法による布の吸水性を検討する場合、繊維材料のほか、布の組成、すなわち、糸の太さ、撚り織物組織等に影響される。そこで先ず糸についての毛細管的吸水を検討し、ついで織物間隙の影響を加えてゆき